

地域おこし協力隊 蜂須景子の活動レポート Vol.11



9月23日(木)に料理教室を開催しました。今回のメニューは、「よだれ鶏」、「レンコン餅」、「麦芽コーヒープリン」です。よだれ鶏のタレに氷川町産の乾燥野菜(晩白柚の皮、オクラ、コーン、紫キャベツ、人参)を使い、カラフルに仕上げました。鶏肉がとても柔らかく、綺麗なピンク色に仕上がりました。皆さん驚かされていました。

レンコン餅は、不思議な食感で食べ応えがありました。麦芽コーヒープリンは、紙パックのままプリンにして簡単にできるので、「家に帰ってすぐに作る。」と言われる参加者もいました。皆さんと楽しい時間を過ごし、私にとっても良い経験になりました。



▲地域おこし協力隊 インスタグラム

地域おこし協力隊による料理教室～あまうまチキンサンドイッチ、無限かぼちゃサラダ～

- ◆日時 11月21日(日)10時 ◆場所 文化センター調理室 ◆参加費 500円(当日徴収)
- ◆定員 10人 ◆申込方法 11月16日(火)までに電話またはFAXで氏名、電話番号をご連絡ください。
- ◆持参物 エプロン、三角巾、マスク、手ふきタオル、保冷バッグ(持ち帰り用)
- ◆申込先 地域おこし協力隊 蜂須景子(農業振興課内) ☎0965-52-5854 FAX 0965-52-3939

新婚世帯の皆さんへ～結婚新生活支援事業補助金～

町内在住の新婚世帯を対象に、新生活にかかる費用の一部を補助します。申請方法など、詳しくはホームページをご確認されるか、お問い合わせください。

- ◆対象者 ・令和3年1月1日から令和4年2月28日までに結婚した夫婦
- ・婚姻日の年齢が夫婦ともに39歳以下 など

◆補助対象経費(令和3年1月1日～令和4年2月28日にかかった経費)

- ・住宅の購入や賃借にかかった費用
- ・引っ越しにかかった費用

◆補助上限(年齢は婚姻時点の年齢が高い方)

- ・39歳以下の場合:上限30万円
- ・29歳以下の場合:上限60万円

◆申請期限 令和4年3月4日(金)まで

☎ 地域振興課 地域振興係 ☎0965-62-2315



▲詳しくはこちら



水を大切に使いましょう

蛇口をひねると当たり前に出ますが、水資源は無限ではありません。これからも豊かな水の恩恵を受けるために、水を大切に使いましょう。町民課の窓口で節水啓発ステッカーを配布しています。

身近でできる節水～熊本県の1人1日当たりの水道使用量は326ℓ～

①		②		③	
	歯磨きはコップを使って 1回約5ℓ節水		食器はため洗いで 1日約83ℓ節水		シャワーはこまめに閉めて 1回約36ℓ節水



▲節水啓発ステッカー

☎ 町民課 戸籍環境係 ☎0965-52-5851

定住自立圏イベント情報 ～八代の秋を満喫「やつしろヘルスツーリズム」～

ヘルスツーリズムは、旅をきっかけに健康増進・維持・回復につなげることを目的とした活動です。詳しくはDMOやつしろのホームページをご確認ください。

- ◆日奈久しあわせ「健康」コース(1泊2食) ※各宿泊施設へ予約
- ◆東陽を感じる「地産地消」体験コース(日帰り・キャンプ) ※DMOやつしろHPから予約
- ◆販売期間 令和4年1月中旬まで ☎ 一般社団法人DMOやつしろ ☎0965-31-8200



▲詳しくはこちら

秋季全国火災予防運動「おうち時間 家族で点検 火の始末」

11月9日(火)から15日(月)までの7日間、秋季全国火災予防運動が実施されます。これから冬にむかい、空気が乾燥し火災が発生しやすくなります。火災を未然に防ぎ、大切な命や財産を守りましょう。

☎ 八代消防本部予防課 ☎0965-32-9227

俳句

短歌

町民文化

三十度越す暑き日の神無月
西上宮 村内 一誠

秋あはれとは言ひがたき負基かな
北野津 井田 道寛

返信の温もりとどく白露かな
西野津 古崎スエノ

東京パラ感動と感謝の爽やかし
西野津 古崎 栄子

風景画絶えて行かざる今なれば
庭全体を一枚の絵に
西上宮 村内 一誠

自由とはどんなものかい家出し
猫の火乃介もう冬が来る
北野津 井田 道寛

登園す曾孫の小さき手のひらに
無事を祈って熱きタッチを
西野津 古崎スエノ

久々と青空見せた秋晴れの
夕方なのに空の眩しい
西野津 古崎 栄子

投稿について

投稿先

・誤字防止のため楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
・電話番号を記載してください。
・毎月5日必着

〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課 企画係
☎0965-52-5850

「雪国」VS「山の音」どっちが?

法道寺 本田 花風

その前に、川端の生い立ちについて紹介する。彼は孤児という特異な家庭環境で育った。明治三十二年、大阪市で開業医の家庭の長男として生まれる。姉と二人きょうだい。康成、満一歳余で父を亡くし、満二歳余で母も死んでいく。祖父の手で育てられたが、祖母は満七歳の時死亡、別れていた姉も満十歳で亡くし、そして祖父も満十四歳で亡くす。三島由紀夫も特殊な幼少期を過ごす立場は全く違っている。その康成は「十六歳の日記」の自伝を書く、まさしく神童である。

そして一高、東京帝国大学へと進む。幼い頃の康成には一種の予知能力のようなものがあつたようである。育った環境であつたが、小学生の旧友によると成績はよく、作文が得意で群を抜いていたという。先ず、「雪国」から。日本文学史上の傑作であるこの作品、物語は、語り手(島村)は雪国の温泉町を訪問する。その温泉町でひたむきに生きる女たち(雪国の芸者駒子と、その列車に乗り合わせた女、葉子)の諸相、ゆらめき、定めない命の瞬間の純粋を見つめる物語、一方には、簡潔に言えば男女の三角関係の物語である。